

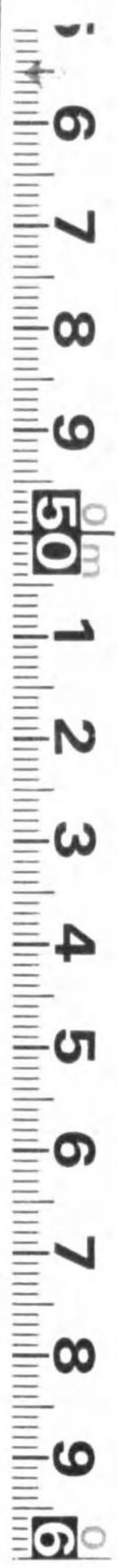
國語学文要 全

815-K047ウ



1200800303116

815
047
⑦



始

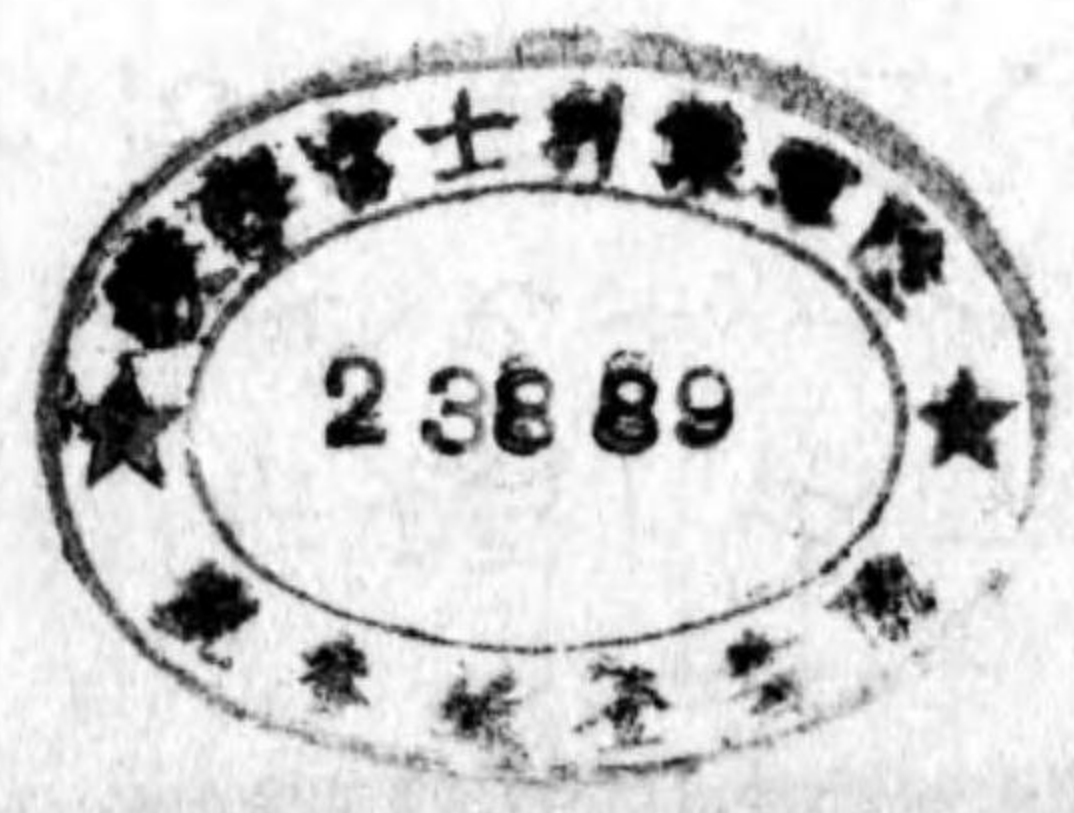


815
K0-47

國語
學
史
要



岡
K10
39





国語学史参考書

- 国語学小史(保科彦一、明治32)
- 研究史(花岡安見、明治35)
- 書目解題(赤坂又次郎、明治35)
- 史(保科、加刑、又国語教育ニ載セラル)
- 日本語学史ニ(長運恒外)
- 概論(龜田次郎、42)
- 小さい、(安藤正次、大正13、被「概説」ト改題、昭和4刊)
- 近世、(伊藤慎吾、昭和3)
- 史の研究(鬼沢福次郎、昭和4)
- 郡書索引 広文庫
- 古事類苑文字下
- 国語学関係刊行片書 (時機誠記 昭和 年五月「国語と国文学」)
- 国語学附言語学参考論文目録(田村栄太郎 昭和三年五月「国語と国文学」)
- 文檢参考、(史要(稿文七))
- 文献書院 国文学講座

序説

- ①文字 (1) 萬葉假字マカ漢字假用創案者 | 漢字渡来 | 漢吳音 | 古音論 | 日支直接交通ノ初期 | 推古期遺文ノ假用例 | 漢字假用研究史料 | 假名遣奥山路 | 萬葉假字 | 萬葉假字分數ト分類史 | 史道ト關係 | 萬葉假字發達ノ理由 | 草假字片假字へ
- ②假字(名稱) | 萬葉假字ヨリ草假字平假字片假字へ | 草假字 | 平假字
- ③平假字 | 名稱 | 字原 | 筆字
- ④片假字 | 名稱 | 字体字原
- ⑤天武新字
- ⑥其他文字 | 楠文字 | 新在家文字 | 外題用文字 | 明治新造字 | 記録書 | 符号化文字

(1) あめつちノ詞

(2) 大島歌

(3) いろは歌 | 史料 | 作者 | 空海説 | 非空海説 | 春海字説并語

| 春村碩流漫筆 | 眞頼博士色葉作者考 | 大矢博士 | 吉澤博士

| 萬野博士 | 日本歌隆史 | 製作ノ目的 | 京字ノ下

(4) 五十音図 | 名稱 | 作者時代ニ關スル苗説 | 音図固有説 | 吉備

公説 | 非吉備公説 | 音図ノ古キ形 | 音図ト悉曇 | 製作期 |

音図發遣 | 音図ノ音價 | 音図ト製作當時ノ國語聲音ト關係 | 音

図功罪 | 音図利用史 | 音図改訂論

(5) 神代文字 | 神字認容説ト否認説 | 兩者ノ主張 | 神字ハ認容スル

能ハス

(三) 假字遣

(1) 假字遣ノ本質 | 發生事情發生期ニ關スル誤解(者) | 國語聲
音發遣例 | 和名抄ノ假字遣

(2) 定家 | 行能卿 | 悦日抄 | 行河 | 語勢假字遣又八四

声、

(ハ) 丁史の仮字遣 — 成俊契沖 — 其久矣 — 春海仮字大意抄、説 — 高田與清十六夜日記残月抄序、説

(ニ) 擬似標高仮字 — 標音 — — 秋成灵語通 — 鳥海松亭 — 卷蒙 — 標音 — = 用スル注意

(ウ) 契村采実古言衣延糸 — 石塚竜居仮名遣奥山路 — 草鹿磁宣隆古言別音鈔

(エ) いがずつ 仮名遣

(オ) 仮字遣ノ行ハル、範圍 — 仮字遣記憶法

(四) 標記法

(イ) 字音標記 — 八声尾 P t k — 撥音尾 m n ng

(ロ) 国語声音標記 — 撥音 — 促音 — 濁音 — 半濁音 — 江行音和行音ニナルキ — 長音 — 反覆標記 — 其他ノ音符

(ハ) 分別書法

(ニ) アクセント

(五) 音韻学

(イ) 音韻学ノ定義及範圍

(ロ) 悉曇学史 — 悉曇学下国語学トノ關係

(ハ) 韻鏡学 — 韻鏡解説 — 韻鏡中心字音学 — 文雄 — 宜長 — 太田方 — (義内 — 黒川春村 — 白井寛蔭 — 岡本保寿 — 水村正緯)

(ニ) 字音 m n ng 尾 — 宜長 — 全齊(方) — 義内 — 関政方 確字例 — 行智悉曇字記真釈

(ウ) 国語撥音 — 其ノ種類 — 宜長 秋成論争 — 河川藤 — 鳥海松亭音韻啓蒙 黒沢翁満言灵のしるべ、敷田平治音韻啓蒙(鳥海トハ別)

— 安藤、松岡両氏ノ説

(エ) 阿行・ノエ 也行ノエ エ此 — 仮名遣奥山路 — 古言別音鈔

奥村采実古言衣延糸 — 全齊影喻四等耶行定位説ト現代字音学者 — 大文博士

(オ) オヲ所屬論 — オ音價混同ハ長保頃カ一文治元年管絃音義ハオヲ錯置 — 契沖「すみちのへ」ニ通フトス — 宜長於乎所屬糸 — 義内於

宇野重義(天政十年六月本、天保四月霜月本)富士谷成章脚結抄
(4)通畧延約説 | 語意考普通 | 畧音 | 延約 | 雅澄舒言三輯例 |
邪言成法 | 通畧延約説、切罪 | 大因隆正「通略延約亦」(天保成
刊)

(11)音便 | 漢字三音考

(12)清法論 | 標記如何宜長説 | 竜店古言清法説 | 古言清法説 | 村

田春海 | 荒木田久光 | 松岡氏日本言語学

(13)半濁音 | 名称裏邊 | 漢字三音考呵刈霞ノ説 | P音序

六に五は

(14)名称所見史料 | 名称ノ意味 | 兼根神代紀抄出葉説 | | 梅井一室
「てには綱引細」説 | 一室説ノ評 | てにはト平古止矣 | 助辞識
別ノ始メ | 宜命書キ | てには内容ノ裏邊

(15)てには研究書 | 米尔葉大概 | | 米尔葉大概抄ノ抄 | 何レモ

偽書カ | 姉小路式ノ一類 | 春樹頭抄抄 | 同増抄 | 和歌八重垣

(16)非諧流

七活用

(1)堂上歌学流 | 一室詞の秋草 | | 成章脚結抄
(2)宜長ノ研究 | 天尔遠波組鏡(明和八、十成) | | 詞の玉結
(安永八、十二成、天明五、五刊) | 其ノ評 | 玉の緒象
(3)守 助辞本義一覽(天保六十一成、九刊)
(4)義門、玉緒線分五冊 天保十二、五成 嘉永四刊 てには保辞并
萩原廣道 弘化三、二他序 嘉永二刊 | 黒川眞積 玉の緒裏格并
(5)廣日本文典

(6)初期ノ萌芽的研究
(7)日本書紀通證 | 語意考 | あ中の抄装因 | 御国詞活用抄 |

活語漸續譜

(8)春庭の研究

(9)義門の研究

(10)活用古形

(11)形容詞

(八) 語原

- (1) 語原研究ノ本質——明治以後ノ業績
- (2) 記紀風土記等ヨリ和句解以前マテ
- (3) 和句解——契沖——日本釈名——東雅
- (4) 通略延約説
- (5) 鈴木眼、雅言音聲考(享和三成)——歴史的價值
- (6) 音義派——前期音義派——雅言音聲考——音派——一行派——言灵派——神灵感——音義派主張ノ根拠

(九) 辞書

- (1) 定義——分類——漢字辞書——国語辞書——普通——特殊
- (2) 新字——楊氏漢語抄——隸萬象名義——新撰姓氏録
- (3) 類書及ハ百科辞書——漢文ノモノ——国文ノモノ——其他
- (4) 韻書
- (5) 本草辞書
- (6) 漢和字書(篇立辞書)

(八)

十、漢文訓讀

- (1) 音讀ト訓讀——訓讀ハイツヨリ始マレルカ——吳本發生
- (2) 乎已止矣——名称——創案者——乎已止矣發生ハ平安朝極初期カ——發生ノ理由——吳型——真俗ニ異——博士家吳ハ叔氏吳ヨリ分派ス——及還——吳譜

(九) 初語式簡易辞書

(九)

(土) 大典文法書

- (一) 返点——乎已止矣ト併用——出現ハ平安末カ
- (二) 漢方讀ミ方ノ變遷——土佐日記——乎已止矣——童蒙頌韻式——新註、点本——桂庵和尚家法傳矣——桂庵矣——文之点——道春矣
- (三) 益軒点例——春名知漢要領
- (四) 周齊ノ嘉点——後藤芝山ノ後藤点——佐藤一齊ノ一齊矣ト尾前山訓及後出
- (五) 大典ノ種類——大典ノ部収
- (六) 大典ノ觀念發生ハ蘭文典ニヨルカ——成章——廣蔭詞ノ玉橋
- (七) 蘭文典模倣——語学新書(齋峯代申)
- (八) 鈴木重胤「詞ノ捷徑」三弘化ニ刊——秀成雜書——直助皇國語学自在——佐藤成実語学指南——谷千生詞ノ組立ニ卷册卷ニ二年刊
- (九) 洋式分類——成章——眼——言語四種分類ト支那語学——義内——廣蔭——千生——岡澤鉦太郎氏
- (十) 洋式分類——代申——小字掌制——黒川眞頼——田中義廉——小字日

(土) 国字問題(畧)

- 本文典——中根氏日本文典——千エンハレン日本文典——廣日本文典——文田孝雄氏
- 文章法——眞頼——中根淑——千エンハレン——千島春忠日本文法教科書册卷ニ三刊——廣日本文典

以上

卷一 名有明子大臣（元興寺露盤銘）
 卷一 奇有明子大臣（元興寺大光背銘）
 蘇我馬子大臣（紀）宗賢文編目（記）
 此與彌弼斯岐移比彌天皇（文六銘）
 等即彌弼斯岐移比彌弼等（天壽國曼荼羅續帳銘）
 豐御食炊屋姬天皇（紀）
 豐御食炊屋比賣命（記）
 已乃斯里王（上官太子系譜）近代王（太子傳補記）
 麻里子王（上官太子系譜）丸高王（記）
 挽子皇子（繼體紀）
 阿米久爾竟斯波羅天比里爾波彌已等（露盤銘）
 留支比里爾波乃弥已等（續帳銘）
 天國非爾廣庭天皇（紀）
 天國押波流岐廣庭天皇（記）

(2) 古代ニ於ケル日支直接交通史料

前漢書地理志（後漢班固）「樂浪海中有倭人分爲百餘國以歲時來獻見」
 魏志倭人傳（西晉陳壽）倭人依記事八魚養ノ魏畧ニヨルト）
 後漢書東夷列伝（宋范曄）「倭在韓東南海中一云々」
 凡百餘國自武帝滅朝鮮使譯通於漢者三十餘國國皆稱王世々伝統其大倭王居
 邪馬臺國「建武中元二年倭奴國奉貢朝賀使人自稱大夫倭國之東南界也光武
 賜以印綬」或記「安帝永初元年倭國王帥升等獻生口百六十人」續諸見「本居
 宣長馭式概言、伴信友中外經緯伝管政及漢籍倭人考、松下見林異株日本伝
 等参照」

「至邪馬臺國女王之所都」可七萬餘戶、女王國、立ハ女子
 爲王名曰卑彌呼、事鬼道能惑衆年已長大無夫婿」

(3) 紀伊隅田八幡宮古鏡銘文（本邦最古ノ文）先恭以前應神期ノ物ナト云フ學看
 アリ「癸未年八月日十六壬午」弟二、在意深沙加宮斯麻念長、奉造開中興
 皇、織人今州判二人等取白上同二百早作此意」同ハ銅、竟ハ鏡、記神武御
 歌「意佐加能意富伴慮夜爾」萬葉十三三十一「春幡之忍坂山者」記「於佐苗」

(4) 推古期遺文其他ニ於ケル漢字仮用例(字音ハ大天氏因代古音鑑ニヨル)

① 一綴音ニ当ルモノ

(a) 義ガ (麻蘇義) 奇ガ、洛ガ、蕪
 (b) 意オイ (富木) 富オイ (佐富女王) 里ロイ 台トイ (興台産米)
 (c) 門マ (英) 英ガ (英) 乃ノ (巴) 良ラ (布達波良上宮)
 (d) 足ス (足尼) 宿ス (宿弥) 竹ツク (竹斯) 福ポイ (伊福社)
 (e) 力カ (等) 敷トキ (安) 香ガ (匣母音山) 綾Long (餘綾)

(5) 字音仮用研究材料

推古期遺文

紀記 六国史 類聚国史

延喜式

宣命

萬葉集

古風土記

新撰姓氏録(嵯峨弘仁六年上)

天治本催馬樂抄

近衛家琴歌譜(田融天元四年字)

新撰萬葉集(菅家一一)

本草和名

本草和名伝抄

医心方

金光明最勝王經音義(承暦三年寫)

延暦二十三年神宮儀式帳(類從)

和名所(猿噴、承平末年)

碑足石

新詠草叢終音義

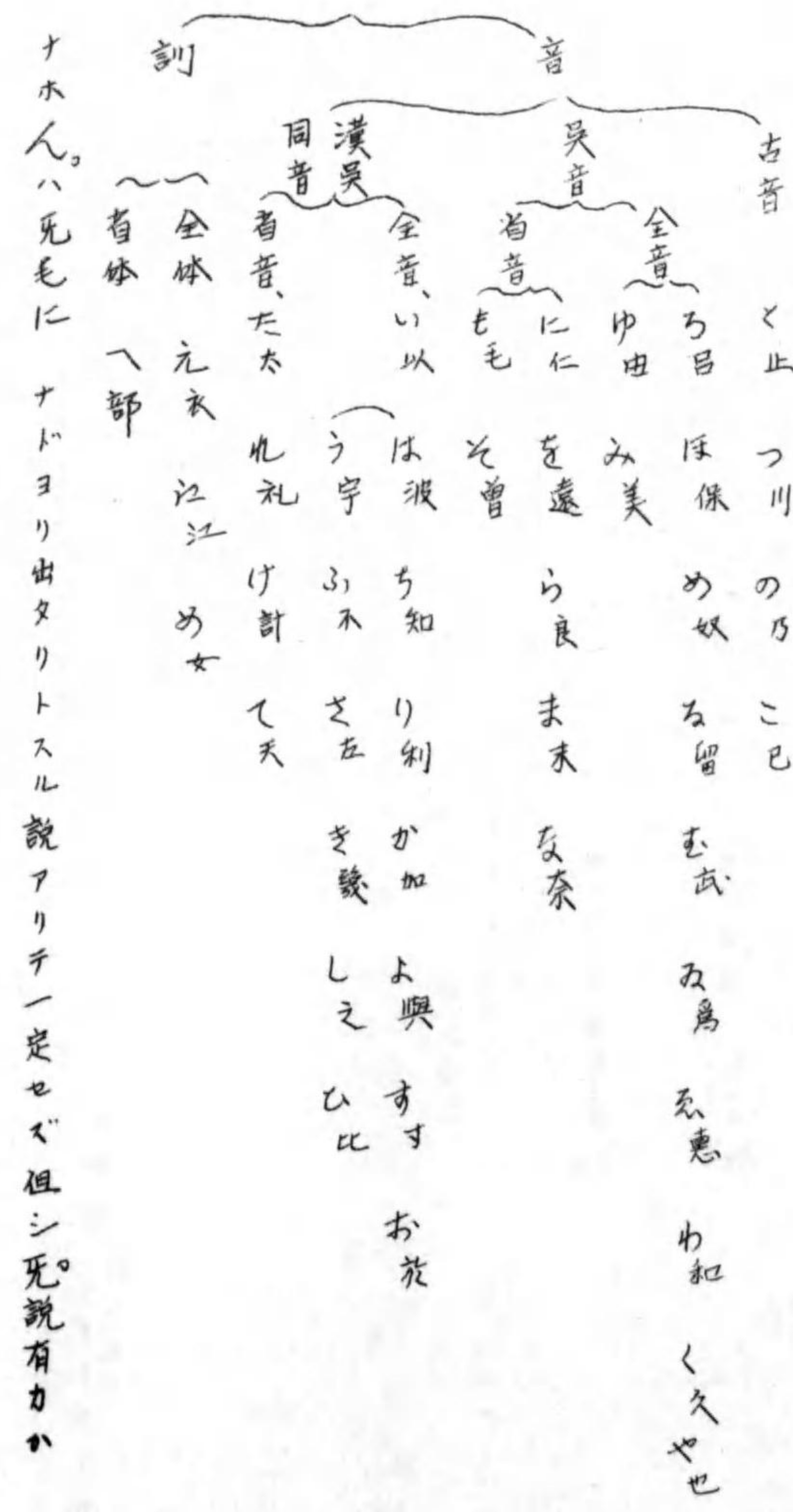
日吉神社七社祭祀船謠(慈惠大師良派)

(6) 萬葉集中ノ字一仮字ノ例

(1) 一綴音ニ当ソル物 (a) 者ナ 謝ナ 水ニ 寧ナ (一良)
 (b) 安ヲ 雲ウ 憶ヲ 吉キ 結ケ 知備曾 信シ 式シ 槽ツ 則ツ (能) (則)
 (c) 極此疑 作樂花 散莫借毛
 (d) 越方人尔 乞痛 越女
 (e) 高山(高) 郭ニ通ス 字音兼證 6op
 (f) 愛智 絶塔浪尔 名豆 蠟
 (g) 見果石(入) 替ナラズ 確字例 19 オウ)
 (h) 鬱膳 古尔有 険人母 今還金 玄別南 乱今可 聞
 (i) 難可將 歎 往乃 蕪々 相狹丸 散鈎相
 (j) 家吉 閑 事等 不有 忌

(7) いろは仮字字原(大矢透博士説ニ拠ル)

(7) 鐘礼 落當知足
 得干蚊特去 (ウカレカエカム)
 八徳井上 (ハニツ井上)
 平群 (ヘカリ)
 情進 (シヨウジン)
 思篇来 (オモハリス)
 情出 (シヨウシュツ)
 但シ義訓カ



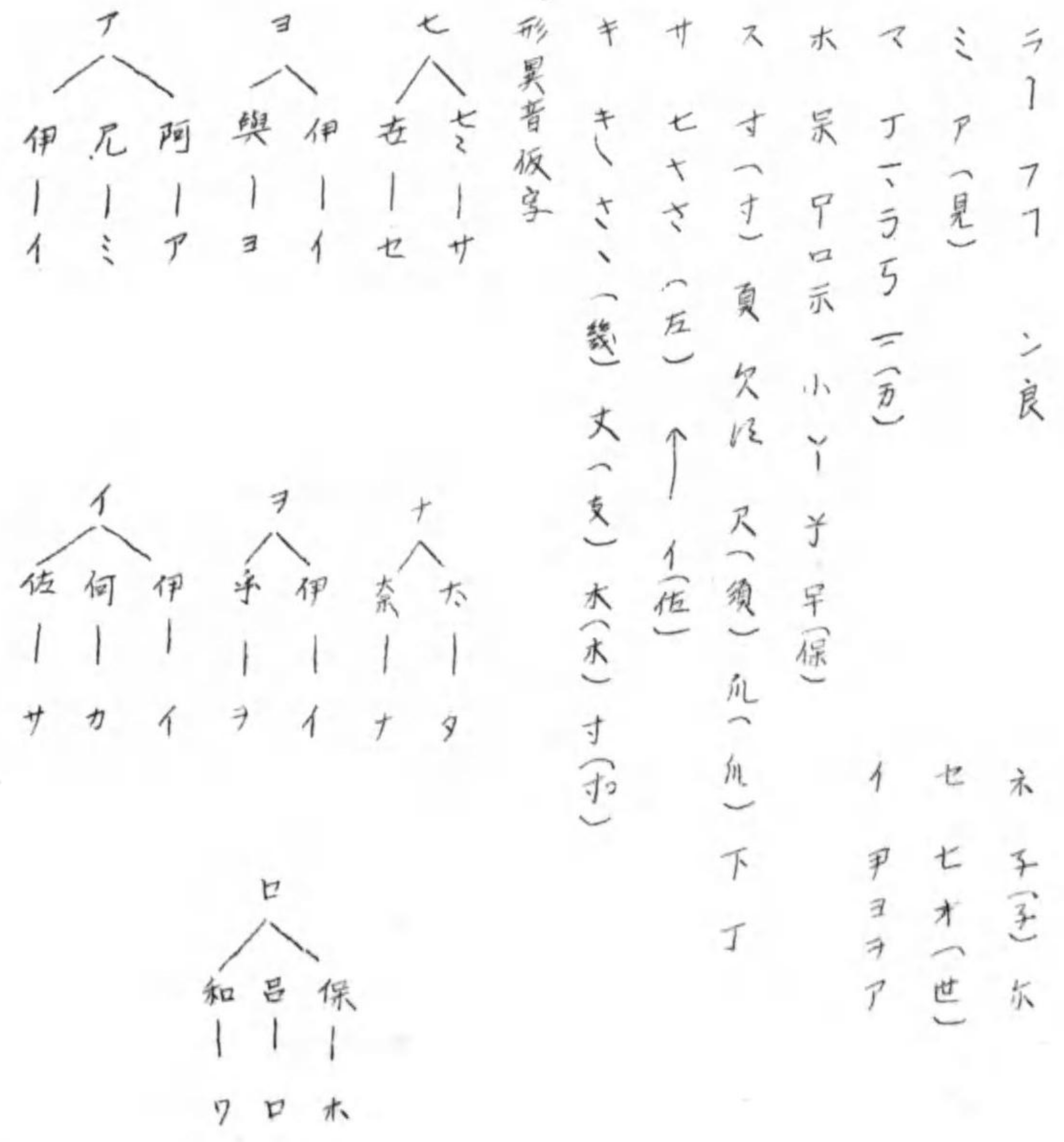
(5)

(8) 仮字字原(いろは仮字ニ比較スルト異論多シ、吉澤義則先生御説ニヨル)

ア 阿 イ 伊 ウ 宇 エ 江 オ 放 ハ ハ ヒ 比 フ 不 へ 部 ホ 保
 カ 加 キ 籤 ぎ ク 久 ケ 介 コ 己 マ 万 又 末 カ ミ ミ ム 牟 メ 女 モ 毛
 サ 散 シ 之 ス 須 セ 世 ソ 曾 ヤ 也 イ 伊 ュ 由 エ 江 ャ 呂
 タ 多 チ 十 ツ 州 テ 天 ト 止 ラ 良 リ 利 ル 流 レ 礼 ロ 呂
 ナ 奈 ニ 仁 又 奴 ネ 祢 ノ 乃 フ 和 井 井 ウ 工 慧 ヲ 牙
 10 ハ 乃 ハ 13 ??
 フハ乎ハ シヨトナル
 輪ノ形ヘニ筆ニテ()ト書クヨリ来ルカ?
 ン 〃 悉曇空真説
 ニ 〃 フハネタリトスル説
 レ 〃 撥ネル音ノ象徴 | コレ可ナルベシ
 尔 ノ頭ノ画ヨリト云フ説
 〃 異体仮字ノ例少々
 口 〃 禾(和)
 ノ 〃 了(乃)

(6)

同形異音仮字



(9) 天武朝新字ノ例 (但シ水村正鮮博士説ニヨル)

梓 (銚ヨリ作ル) 椅 (椅ヨリ作ル) 桜 (鞍ヨリ作)

(10) 淨瑠璃芝居外題、黄表紙名等ノ新作字

小野篁謹字盡 聴從浅黄舞 前堂桑門筑紫報

(11) 阿女都千詞 (大矢博士ノ訓方ニヨル)

アメ天 ツケ地 ホシ星 ソラ空 ママ山 カハ川 ミネ峯 タニ谷
 クモ雲 キリ霧 ムロ虫 コケ苔 ウヘ上 スユ末 エワ硫黄サル猿
 オフセヨ雌瑠 阿行也行 獲ヲ ナレ井テ 居テ

(12) 太皇太后歌

太田簡伊天奈徒武和礼遠曾支美女須土安佐利口比由久也末之呂及宇知惠倍
 留古良毛波保世喫衣不祢加計奴

今安世伝誦阿女都千保之曾里女之訛説也 此誦爲勝
 田后ニ出テ、菜摘ム我ヲゾ、君召スト、求食イ追ニ行リ、山城ノ宇治

(打) 醉ヘル子等、藻ヲセヨ、得船敷ナス

(13) いちは歌、名目字体ナトノ見エテ居ル文献 (平安朝期ノ物)

白河帝承曆三、四、十六書字金光明最勝王經音義（一七三七）
 河海抄等所引江談抄達文 天仁二年八月記事（一七六九）
 根來寺興教大師學鏡、密嚴諸經中伊呂波紙（近衛康治二版四十九才）
 西念極樂願往生和歌 康治元、五、二一日（一八〇二）
 色葉字類抄（但世俗字類抄二卷本）天養比力（近衛一八〇四—一八〇五）
 宇治左府賴長名記 久安六、一、二（近衛一八〇〇）

鎌倉期ノモノハ省畧ス、弘安中ノ悉曇畧圖抄卷七片板字事ノ条ハいろは
 歌ニ京字ノ存スル最古ノ例

(14) 凌雲集 從五位下内膳正仲雄王ノ謁海上人「、、、、」字母弘三乘真言四句「、、、、」

参考諸行無常 是生滅法 生滅々已寂滅為樂（涅槃經）

(15) 五十音圖ノ名称

五十字文 仮名反り因 対島いろは 五音相通因 五音因反音因
 五十音圖 五音五位因 五位十母因 言靈まさかみ（言灵家説）

悉曇十二韻声ト五十音圖トノ比較表（大矢博士ニ拠ル希云十二摩多説）

	ナ	カ	ア
舌	齒		
佗 叱	若 車 社 社 若	哞 伽 伽 佞 迦	阿 ア
tha ta	na sha ja cha ca	ka gha ga lha ka	a
	只 只	根 根	伊 イ
	朱 朱	矩 矩	烏 ウ
	制 制	計 計	藹 エ
	社 社	句 句	奥 オ
			〇

ノ中長母韻五何ト界畔字暗 a 惡 ak 八省ク利摩四何モ同梵字八印同、
 不便ヲ有モヒテ者ク

(16) 神代文字論史料
 忌部廣成古語拾遺 大同三年
 往行存而不忘
 三善清行昌泰四年革命葛文(一五六一年) | 否認
 大江匡房 菅崎宮記 | 否認
 卜部兼房 秋日本紀(後伏見正安三年一六一九二八完成) | 於和字者其起可在神

	フ	ラ
	口	
邊又訶沙	奢	羅
llanKsa ka sa Sa	sa	la
	尾	哩
	井	
	り	
	没	魯
	ガ	
	vu	
	吠	隸
	立	
	we	
	冒	路
	ホ	
	vo	

ハ	夕
聲	聲
囉也	那陀陀他多
マ	ナ
ra ya	na dha da iha ta
以	介
	底
イ	ニ
度	奴
	都
エ	又
曳	用
	祿
エ	不
欲	報
	都
ヨ	ホ
	ノ
	ト

代次筆下之術起自神代無文字豈可成小哉

○北畠親房、神皇正統記——否認

○尾形正通、神代口訣（貞治六年二七〇）「神代文字象形也——」

○一條兼良、日本書記纂疏——否認

○卜P兼俱（永正八年）神代紀抄（神代文字及一万五千三百六十字アリコレヲ用フルコト尤モ秘スル

黑滝ノ潮音 苗事大成経 延宝三年二三五——有

契沖——先

具系益軒

玉徳二（二三七三） 莫例 元禄十六自（二三六三）
自娛集

新井白石

古道通 正徳大成 二三七六——先

同文通考

正徳中成

有

東雅

享保四完成二三七九

有

東音譜

同 成

有

白石手簡

有、此書讀ハ東音譜成終後ノモノ

跡部良蹟

和字伝未考

享保九成 二三八四——有

太宰春臺

和讀要領 一、十三成 二三八八——先

吉見幸和

国学辨疑 延亨三成 二四〇六——先

○藤塚知明（幸和門人、日文伝上村抄）——先（貞見）

○錦忍 以呂波問糸 宝曆十三成 二四二三 有

○道樂庵敬雄 致伊呂波問糸 安永七、十一月中旬成

○錦忌 金杆摧駁 安永七、十二月初日成

真淵 語意考 昭和二（二四二五）頃作歟——先

谷川士清 ^{コト入カ} 和訓栞 安永五、二四三六歟

富士谷成章（北辺隨筆所引）——先

○宣長、古事記伝 玉勝間——先

僧敬光 和字伝 寛政五作 二四五三——有

某 皇知神代字集 寛政七作（日本文法所引）——有

藤貞幹 如古日録 寛政八成 二四五六——無（神字ハ苗人ノ書）

○平田篤胤 古史徵解題記 文化八成 二四七一——有

神字日文伝 文政二成 二四七九——有

② 伴信友 仮字本末

高田典清 (私化四段ニ五〇九) 松屋筆記 | 無

鶴峯代中 銀水文字考(字原ヲ説ケルモノノ嚆矢) 天保九、成ニ四九八 | 有

明治以後(否定論者ハ葎ケス)

藤原政興 神字古事記 明治五刊

矢野玄道(篤人) 徴狂人 明治八成 | 有

文藝類纂 柳家芳野 明治十一 (日文、天武ノ新字也)

清国沈文吹 日本神字考 明治十七 (神字、支那古代文字ナリ)

田中頼庸 神字考

◎ 落合直澄 日本古代文字考 二 昭和三一刊

◎ 谷森善臣 五十音圖纂 二字 明治二八成

久米邦武 日本古代史 明治四十年(出雲字ハ國越人タル少考名余ノ

文字ナリ)

北里園 日本古代語音組織考解説 大正十五刊(神字ハ假字漢末以徴

平仮名此仮字製作以前ノモノ)

(17) 定家仮名 成立事情(行阿仮名文字遺序)

京極中納定家に家集拾遺愚草の清書を(行阿の)祖父河原前司干時 親行に

誂へまうて此ける時親行申といはくを之等の文字音かよひたる誤あるによ

りて其字の見わきかたき此れあり居る間此ついでを以て後学のために定をか

るべきよし黄門に申処に黄門のいはく予もしか收日來よりおもひよりし事な

りされば主僕親行の所存の分書出して進へまよし仰ら此ける間大概かくのごとく

此れを註し註之也 進する所に申処のごとく其理にかよへりとして則合矣せら

れ早しからば文字つかいを定む事親行が抄出是はしまり也拾遺愚草ノ成橋

ハ上巻春日同詠百首心製和ニ建保四年書三卷之家集トアリ

同年三月二十八日待從ヲ辞セリ

(18) 文和二年権少僧都成俊ノ萬葉集跋文ニ「即於和字音義一從京極黄門之以降

尋八雲之跡之輩萬葉同其趣者歟仍天下大底守被式而異之族一人而無之人々似

背萬葉古今集之字義者也僕又專被式而用未年久今時又亦不背之將來又以可然

者也

(19) 契仲 和字正濫抄五、元祿六年二月自序五四歳、曰八年九月刊(三三五五刊)

稿成夏 / 仮名字例四、延宝四成 同六三刊（二五三八刊）

倭字古今通例全書八卷 元禄八年七月序 同九年八月刊（三五六刊）

和字正濫通妨抄 五卷 元禄十八月成

和字正濫要領 一卷 元禄十一、五月成

指取魚彦 古言梯 一卷 明和元、八成、二、五刊

村田春海 増補標註古言梯 一卷 文化三、十二刊

清水漢臣 仮字拾葉 一卷

市岡益彦 雜言仮字格 一 文化四刊

、 、 、 、 、 拾遺 一 文化十一刊

(16) 倭字古今通例全書 序「、 、 、 、 、 さん先苗記になづまんや、只理の正道にしたがひ

て可なり。近年かなの書あまた出たり、或難解し或古書を証拠になて愚味のた

しかにおもふやうにしなせり、微こするにたれりとおもふやう、一向かなを不

知ゆへなり

(21) 灵語通 一卷 上田秋成、寛成六、七年頃成ル九刊

井上文雄 仮字一新（刊） 灵語通ニ同ス

(22) 国本保孝、灵語通 破^シ 一（明治六十二年成）

(23) 鳥海松亭 音韻 啓蒙 文化十二年他序 十三刊、

しちすつ仮字遺ヲトケルモノニハ

行能卿仮字遺

荒木田盛徴、類字仮字遺 七卷 萬治三政 寛文六刊

蛭縮涼鼓集 一 著者不明但京都人 元禄八、二成 同刊（專書）

しちすつ仮名遣便蒙抄 （東北大学本）

(24) 宇比地通^上神 妹須比智通^去神 （記）

(25) 奈良朝頃又ハ以前ニ悉曇渡来セルカ

智通、智達 齊明四年入唐 玄奘門ニ入ル

善無畏三藏 菩提仙那南天国人 佛哲 林邑国人

「波羅門及作有流小田乎喫烏睨腫而播障爾居」

平安朝以後

空海、最澄、小栗栖常曉、灵巖寺円行、円仁、慈覚、安祥寺慧運、

円珍、知證、禅林寺宗睿、

五大院安然 元慶四年 悉曇藏八卷
 加賀温泉寺(山代) 明覺 悉曇要訣四卷 梵字形音義 四卷 反音作法
 明子房信範
 覺彦 悉曇三密抄
 四攝院行智 悉曇字記真經 天保三成
 葛城 慈雲尊者 文化元寂
 文雄 元祿十三—宝曆十三
 唐光韻鏡 = 延亨元刊
 一 後篇 三 安永二刊
 唐光餘論 = 段後刊
 三音正謔 = 宝曆二成 日刊
 和字大觀抄 = 宝曆三成 十三刊
 字彙莊嶽音 四
 經文莊嶽音 一
 (27) 宣長 字音假字用格 一 安永四正月日序、同五、正月刊(三四三五)

漢字三音考 一 天明四、五化序 同五、二月刊(二四四五)
 呵川葭 一 天明七、八月發論
 地名字音轉用例 一 寛政十二刊 (三四六、刊)
 (28) 太田方 (宝曆九—文政十二、71才)
 漢吳音因
 漢吳音徵 一 部三冊 文化十二、五月日序 同年刊、改訂版二種アリ
 一、一、因説 一
 高徴不盡一 同窠音因一 音因口義一 全平讀例 一
 韓非子翼註(讀史書アヲク)
 (29) 字音ハル ng 尾研究史料
 文雄和字大觀抄
 宣長 字音假字用格 地名字音轉用例
 村瀬栲亭 秋苑日涉 二十
 漢吳音因説 文化十二刊
 義川男信三 文化五脱稿、文政七再考 天保六、六、尾 十三、三刊

關政方 備字例 一 天保六二月自序 十三 七月刊
 行智 悉曇字記頁叙 天保三戌

(30) 古言清濁考三 寛政六 秋自序 亨和元刊 石塚龜庵

荒木田久老 古言清濁論卷一 信濃漫録

橋 峯 筆のすゝ心 古言附清伝

黒川春村音韻考證

古言本音考 石金音至 文政十土成 上 大平序

(31) 蕩葉集卷十九 靈公鳥 今來喧曾無、草蒲 可都良 久麻泥尔

加流々日安良米也へ毛能波三箇辨廟之

我門從喧過度電公鳥 伊庭奈都可之久 雖飽不足

へ毛能波尔乎六箇辨廟之

(32) 日本書紀通證 所載「俗語通音」

請	斬	悔	産	言	注	立	指	書	遇
ワ	ラ	ヤ	マ	ハ	ナ	タ	サ	カ	ア
井	リ	イ	ミ	ヒ	ニ	ケ	シ	キ	イ
ウ	ル	エ	ム	フ	又	ツ	ス	ク	ウ
エ	レ	エ	メ	ヘ	ネ	テ	セ	ケ	エ
ホ	口	ヨ	モ	ホ	ノ	ト	ソ	コ	ヲ

今按俗語 活用... 才五之十韻皆非雅語故

詠歌讀書古今不用之

(33) 成章表因ノ註叙

(34) 義門、言語研究

指出通磯 文化十二成
磯の洲崎 文政三成
友鏡 文政六刊

眞宗聖教和語說略因 天保四成
活語雜誌 才一篇 天保三成(後)同九刊

二、 一、十成(後)同十一刊
三、 一、十一成 同十三刊
四、 未刊

山口歌 三冊 天保四十一成 同七刊

語林香記 一 天保十一年成 写

活語指南 二 天保十一成 十五刊

玉の緒繰分 五 天保十二成(後) 嘉永四刊

活語餘論 三 天保十二—十四成 写

(35) 明治以後語彙研究

言語哲学 濱田建次郎 明治二〇刊

国語溯源 大矢透 明治三二刊

日本語彙研究 林麿臣 明治三八刊

国語の組織 大島正健 大正三刊

松村任三 語彙類解 大正五刊

井口丑二 湖原語彙 大正十刊

日本語彙 大正十五、六刊

松岡静雄 日本古俗志 大正十五、十二刊

古語大辞典 昭和四刊

我が国民国語の曙 昭和二刊

坪井九馬三 興謝野寛氏

雜誌「語彙研究」

(36) 日本紙名

ハ自語 四転語 四畧語 四借語 四義語 六反語 七子語 八音語

雅言音考以前ノ音義ノ派式源原書

壺井義知 待明院家一字制

伊呂波声母伝 一冊

伊呂波訓義 一冊

多田義俊

本語口傳 一

日本声母伝 一 (芝山宰相廣豐祝説ト云)

いろは伝授 二 宝曆七刊

母字音配伝 一 有松貞亮 享保中(義俊トハ別)

日本声母伝 一 菅泰翁

紫門和語類聚 五 享保十一成

和語小解 一 享保十一成

東雅 (散見ス)

正声伝 安永中成

(38) 一音派

大村光枝 (信濃人 眞淵門) 国辞解 二 寛政大成、刊

播守部 助辞本義一覽 二 天保大成 九刊

堀考成ノ著書

(39) 一行派

荒木田守訓 辞の音の貌 二 天保十一他序 同刊

篤胤 古史本辞終四 天保十成 嘉永三刊

清泉道菫 安鼻起履細 三 天保十二成 同刊

(40) 言灵派

中村孝道 言灵惑問 天保五成

望月幸哲 近江国人

言灵末田 写一 録田梓園 (嘉永元成)

五十日帯政雄 言灵眞澄鏡

高橋残夢 灵の宿 八字 (天保七十一成) 言灵名義考二十

国語言灵弁明ハ 国語本義 十 言灵古言考 三

(41) 神灵派

林園雄 皇国之言灵 一 文政八成 十二刊

大園隆正 雑屋一家言 一 文政八、五成 刊

篤胤 本辞終 四 天保十成 刊

富樫廣蔭（春庭門）寛政五、一、明治六、言灵幽顯論 五

(42) 篆隸萬象名義 三十卷 六帖（空海）

秘府書、滋野貞主等 天長二年撰 十卷

群籍要覽 四十卷 大江音人

口遊 一 源為憲 田融天禄元年

掌中曆 四 二 中曆（鎌倉時代篇史籍集覽本）

懷中曆 十一（佚） 三 善為康 增珠實熙補

拾抄 三 洞院公賢撰 增珠實熙補

不学集 二 文安元 建仁寺僧十ラニ

和漢三才因会 寺島良安 一、五卷 正徳三他部

名物六帖 伊藤長胤（東涯） 正徳四自序

版字書 藤原資隆 元曆中成

簾中抄 二

塵袋 十一 文永弘安頃

盞裏抄 七 文安三 行啓 天文元 叔氏其比丘

塵添盞裏抄 二。

類聚名物考 山田汲明

嬉遊笑覽 十三 喜多村信節 文政十三 自序

古今要覽稿 不完 文政四、一 天保十三 屋代弘賢等

人倫訓蒙図案ノ類

(43) 東宮切韻 二十卷 菅原足善（佚）

聚分韻畧 四、 虎岡（正平元年寂 69才）

(44) 本草和名 二 延喜中 深根輔仁

医心方（廿卷ノ中、才一卷） 永觀二成 丹波康賴

本草和名伝抄

勤植名彙 九 文政十一自序 信友

畔田伴存 古名録 四五冊 天保十四自序

萬葉集品物解（雅澄）ノ類

(45) 新供字鏡 十二 醍醐 昌養中

字鏡零本 世尊寺本

字鏡集 七卷本 二十卷本 菅原為長作ト云フ

類聚名義抄

十一

倭玉篇ノ類

(46) 和名類聚抄

五卷本

十卷本

二十卷本

永平末年源順

筆註

狩谷望之

板倉

東雅

白石

撮壤集三

飯尾永詳

亨德三成

類聚文字抄

下ノミ

「文明十八歳云々」

（讀類從）

多識篇

五

林道春

寛永七成

同刊

和尔雅

八卷二冊

貝原好古

元禄二自序

同七刊

(44) 綺語抄

三

藤仲實

（元永元三致以才）

和歌童蒙抄

藤範兼

（永元元死 59才）

(48) 色葉和難抄

上覚

建久中成

（上卷通用名言ノ中）

仙源抄

十

後堀川貞応二年以後

類字源語抄

一

弘和二成

惠持

藻塩草

才二十卷詞部

宗碩

無言抄

慶長二成

加其

(49) 色葉字類抄

世俗字類抄

(50) 運歩色葉集

天正十七成

曰我いろは字

曰我 永禄二成

新韻集

萬里集九

塵芥

落葉集

慶長三年版

(51) 温故和新书

文明十六成

新札往來

内府中山忠親

建久六覽

異制庭訓

康曆二

素眼阿弥陀佛共

二〇四〇

庭訓

元安六

一 至徳三ノ間ノ作

遊學

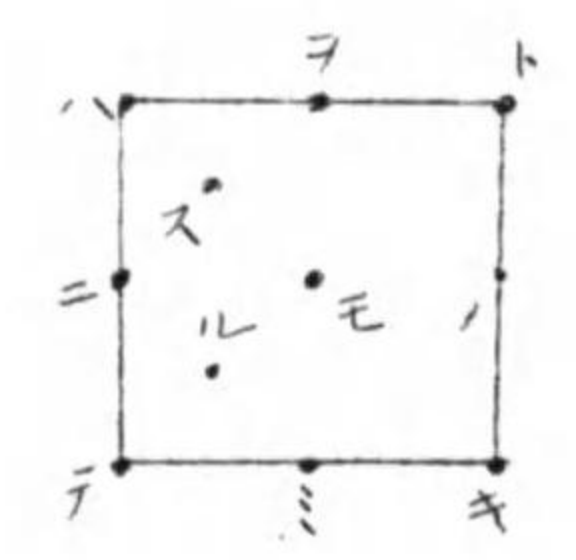
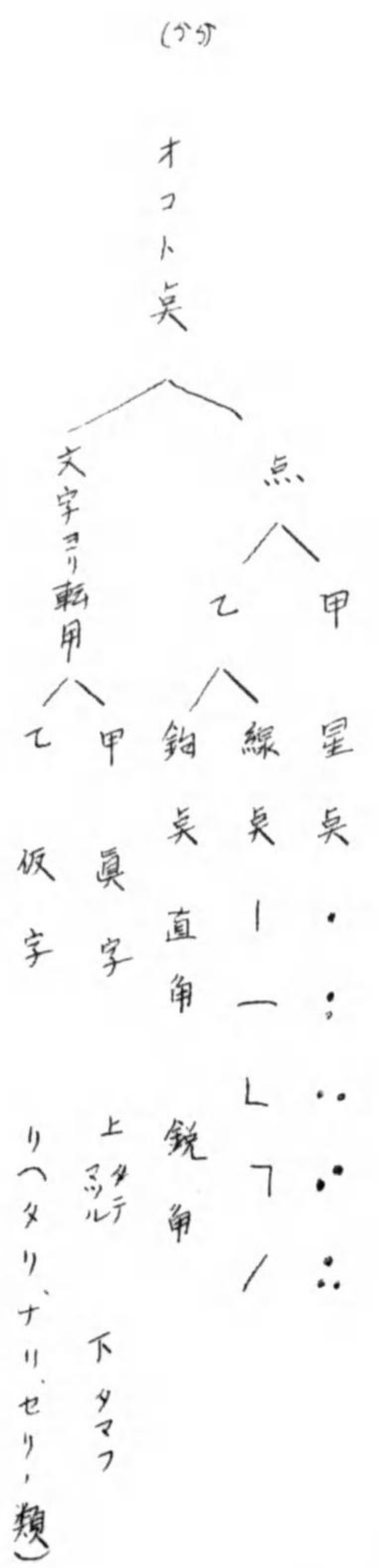
延文四以後

府本三六八

二〇四六

1561
東風
トウフウノ
ヒンカシノカバワイテ

凍融
コウリトク

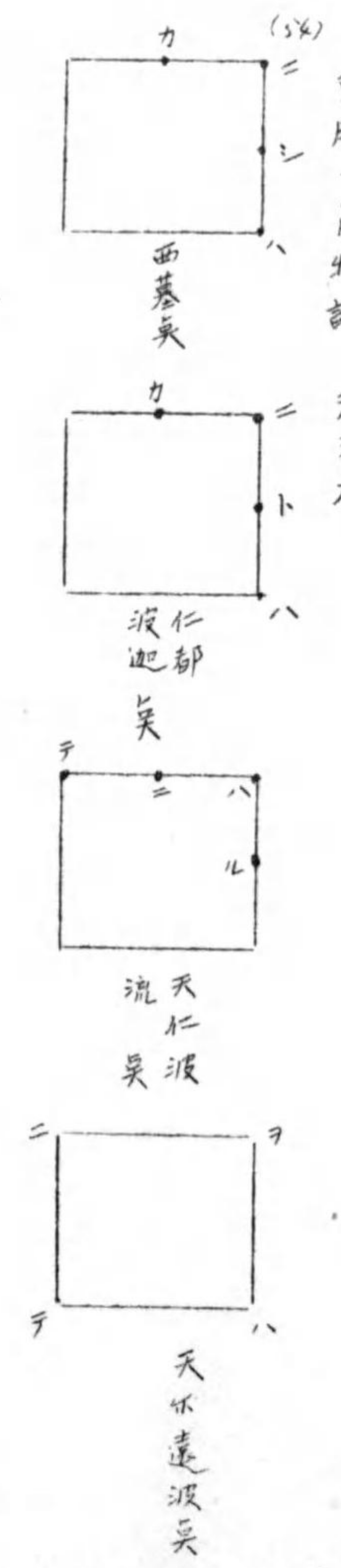


三藏法師表啓ノ訓矣例

讀スルモノ
リ己
ヒカハ添仮字

(平仮字ハ矣ニアルモノ、(カ)ラ(レ)ハ補)

圖
リ己
ハ(カ)リ己とを
關
ヒ(カ)カ(レ)て



(53)

新猿樂記
貞徳文集
使言抄
新撰類聚
明心頃の
大永四年云々
慶安三年、
明衡作
応永末?
天文六

富士野、
天素、
応仁乱消息
一条兼良
室町初期

成?

終

